

令和7年度「学校づくりビジョン推進のための重点ポイント及び具体的方策」概要

＜学校教育目標＞ 「自分の考えをしっかりともち、最後までやりぬく子」の育成

① なかまとともに高めあえる子どもに

- ・チャイムで授業が始まる・あいさつができる・廊下を走らない・トイレのスリッパが揃えられる
- ・ひと（相手）を大切にできる ⇒ 目を見てやり取りができる、笑顔で穏やかに接することができる。



② 授業を大切にしたい子ども育成

○学校で、子どもとかわる時間の長いのは授業である。

これからの時代に適応できる子どもたちに ⇒ タブレットの日常的な活用を推進（すぐに手に取れるように）

※ 授業を通してなかまづくりを ⇒ 授業を通して子どもたちをつなぐ、つながりをつくる。

・授業指導案の中に、必ずその授業において焦点化児童をどう生かすのかの視点を明記するようにする。

・子どもの意見をつなぐ授業

③ 地域、保護者から信頼される学校づくり

○学校でやっていることを知ってもらう

・学校ホームページ（毎日更新）や学校通信（週1発行）などによる情報発信 学校公開の推進と内容の充実

・校区探検、茶摘みや園芸・栽培活動、地区文化祭と授業参観のコラボ等を通し、ふるさと水沢に親しみや誇りを持つ。

⇒ 地域の方々との出会い・ふれあい・語りあいを大切にする。 地域人材の積極的な活用

④ その他 教職員の自尊感情の向上

○「学校が楽しい やりがいがある」と職員が思える職場環境づくり

病休0人をめざす



<その他の取組>

○1人1台タブレット端末の日常的な活用に向けての方策

- ・職員打合せや全体研修会などで、効果的な活用場面について実践交流を行う。今後、様々なICT関連プログラムが導入されることが予測され、何ができるのかを推進部会や経営委員会で考えていきたい。
- ・ICT推進員を中心に、県内外の学校がどのような活用を行っているのかをインターネット等から情報収集し、本校に適した内容を創造したい。オンラインを活用した遠隔授業＋学校間移動による合同交流授業（多様な見方や考え方にふれる機会の確保）を創造する。



○時間外月80H超の職員を出さないために、個々の職員の実態に応じた具体的方策

- ・個々の自己目標設定、評価シートの中に、時間外勤務を減らすための手立てを入れるようにし、期首面談等で個別に話をすることで業務改善を図る。校内研修の内容を検討し、教員が本当に必要とする研修については、その都度ミニ研修会として実施し、精選を図ることで時間を生み出す。
- ・教務を中心に校務分掌の見直しをはかる。課題解決のために必要と思われる研修をミニ研修として適宜組み入れ、現在の学校の現状に合ったものへと改良していきたい。今後若手教員が増加し、ミニ雑談研修といったものも必要で、週末の職員打合せ後の時間などを利用し、困り感を取り上げてテーマにして考える時間を設けたい。時間外勤務削減については、市役所がやっているように見える化をはかるのも1つの方法であると考え。



○教科担任制の方向性を探る

- ・専科教員、非常勤教員による授業の効果を検証し、教科担任制の方向性を探る。
- ・校内人事の段階で、同じ学年を連続で担任配置するなどして、教科指導の質を高める。
- ・教科担当との情報交換から、教材研究や指導に関する効果だけでなく、子ども理解についてもどのような効果が得られるのかを検証する。



○教職員のコンプライアンス意識向上 職員打合せ時に、校長（管理職）が伝えたいことについては書面を使って徹底する。